

県政初再議、臨時議会



■平成24年7月臨時愛知県議会開会



●議席番号順に議長席前(壇上)の投票に向かう議員の列



●初めて用意されていた記名投票札の青票を投じる鈴木

6月県議会は7月5日に閉会しました。鈴木は21日の一般質問に登壇(06既報)、所属する地域振興環境委員会では、リニア中央新幹線開業の2027年をターゲットにしたセントレア2本目滑走路の整備の期限を切った取組について等質問を行いました。

当初提出議案の、**災害廃棄物受入検討推進費**などを盛り込んだ一般会計補正予算▲85,739千円、条例関係6件、松原公安委員長(豊田合成(株)相談役)の任期満了に伴う人事案件などその他議案4件の計11議案については、10議案は全会一致で可決しましたが、補正予算は**50年ぶりの記名投票**により**55年ぶりとなる予算修正動議**が賛成(白票)52、反対(青票)50となり**県政初の可決**となったため、知事は語気を荒げ同じく**愛知県政史上初となる再議**へ付しました。

7月6日の愛知県告示第437号により、7月14日午後1時臨時愛知県議事を愛知県議会議事堂に召集する旨が告示され、付議事件は平成24年愛知県一般会計補正予算に対する再議についてです。

臨時議会では、修正動議は起立採決の結果、賛成少数で否決(再議の場合は出席議員の2/3以上の賛成が必要)され、知事の行政手法に反発している自民党の動向が注目されましたが、被災地の復興支援の立場から原案に賛成となり、結局全会一致で知事原案が可決しました。

県民の安全を守るために受入れないと云えれば簡単ですし、保身にもつながります。ただ戦後最大の試練、被災地の要請に対し皆様の安全を確保しご理解をお願いし取組むのであれば、知事の“おもい”は理解できますし、私たちが積極的に賛成してきました。しかし、議場での態度や願いをする市町村への対応は甚だ残念です。知事1期目で信頼関係構築中という状況では、代表である議会はもとより直接住民の皆さんにも丁寧に説明、説得することが必要と考えます。被災者不在、県民不在と言われた臨時議会ですが、知事、議会双方が重く受止める機会にはなかったと思います。



6人部屋の寮室、片側にベッド3台、奥に勉強コーナー



■愛知県消防学校—総務県民・警察研究会県内調査 120710

愛知県消防学校は、県内市町村(名古屋市を除く)の消防職員、団員や自衛防災組織員等に対し消防防災に関する教育訓練を行うために消防組織法に基づき設置されています。昭和50年代に現在の施設の多くが竣工、設備も含めて老朽化が進行。新任消防職員の訓練(初任科)が125名の定員で前後期行われており、続く救急科は75名の定員で年3期行われているが、3期目の会場は安城に持ち出しての開催であり救急科の受講も2~3年待ちの状況。パーティションがない6人部屋(寮生活も重要)の宿泊施設も収容人数174名のため一部は通学。それでも酷暑の中、稲沢市消防本部の新入職員も大きな声を出しながら訓練に励んでいました。



STEP 21 県政

2012H24

REPORT

民主党県議団 すずき純

鈴木じゅん事務所 〒492-8229 稲沢市稲島11-24
Tel24-6600 Fax23-0791 juneri@na.commufa.jp

1207

新市民病院の起工式が7月16日、地元区長様ほかご臨席のもと挙行、開院はH26年秋です。



公共施設のあり方検討委員会—明日のいなざわが輝くために—稲沢市 120704

平成23年11月17日に第1回の公共施設のあり方検討委員会が開かれました。稲沢市公共施設のあり方検討委員会設置要綱第2条(設置)によると「稲沢市の所有する公共施設の効率的かつ効果的な配置、運営等に向けたあり方を中長期的視点に立って検討するため、稲沢市公共施設のあり方検討委員会を設置する。」と謳われています。**STEP21**県政REPORT1202で稲沢市の公共施設の“いま”で施設の老朽化等に触れましたが、今月4日の第4回委員会で小学校の統廃合について議論のたたき台となる意欲的な素案が提案されました。検討委員会は素案を議論し年度内に意見報告の予定です。

●小中学校の改革案

公共施設：稲沢市の公共施設は庁舎、公民館、学校など合わせて190施設。これらの施設運営に充てられる税収等の一般財源額を合わせると81億6千万円(21年決算ベース)。190施設の内3割に当たる52施設が借地有。建築後30年以上経過したものは全体の7割を占め、延床面積で見ると73%、その内の6割が小中学校。

児童数等：小学生のピークは昭和50年代前半の約1万3千人、平成34年では半数以下の6千人と推計。学校教育法施行規則では標準学級数を12~18学級としているが、既に今年度時点で標準未滿となる1クラスだけの学年のある小学校は11校に上る。

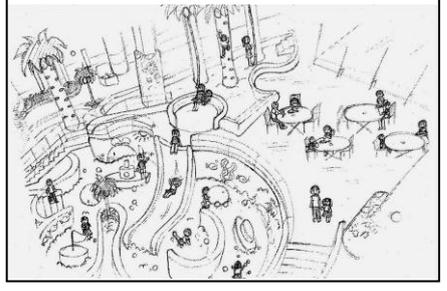
維持費等：年間維持管理費用の市負担分は小学校1校当たり2,700万円、同中学校3,700万円、借地料を合わせると合計約11億4千万円(児童1人当たり約10万円)。一方老朽化している校舎等の建替えは1校当たり18億円とすると、稲沢東小・平和中を除く30校で540億円。

見直しの考え方：①建替えに合わせて中学校を単位に施設集約、②分離校を元の母校に、③通学区域の見直し。

統廃合等によるメリット：社会性を身に付ける学校規模の確保、6・3制を維持した小中連携の教育体制の整備、中学校への分散進学の見直し等が挙げられるが、建替え費用が200億円弱、年間維持費も3億4千万円弱減らすことが出来ると試算。

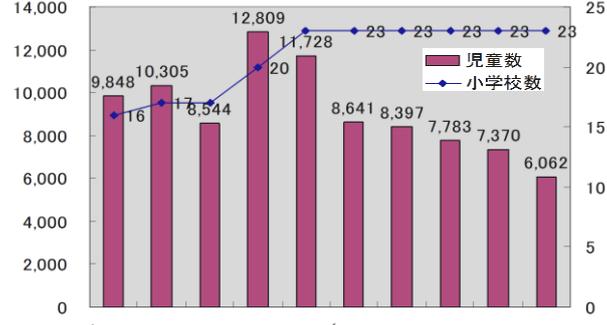
●改革の目玉 PARTⅢから NEW

へいわらくらぐらに、こども屋内遊園地いなッピーランド・プロジェクトを提案

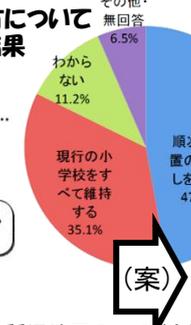


借地料上位7施設	大里中学校	19,942千円
市民病院	大里西小学校	16,379千円
稲沢中学校	平和中学校	13,360千円
稲沢西小学校	大里東小学校	12,952千円

小学校の児童数と学校数の推移



小学校の今後のあり方について 市民アンケート結果



再編前の小中学校



再編後の小中学校



7月21日 県消防操法大会(第3分団出場)

7月29日 稲沢夏まつり

8月4日 稲沢JC40周年記念講演

サマーフェスタへいわ(ねふた登場)

7日 老人芸能大会 15日 そぶえ夏まつり

STEP21

稲沢夏まつり~やろまい会~

サッカーゲーム開催

名古屋グランパス協賛

県政史上初の再議でしたが、ガレキ処理減の自民修正動議に大義が？です。社会保障改革が見えないなか消費増税が進み申し訳ありません。少なくとも身を切る改革の実現をお願いします。祝ロンドン五輪！暑さに負けず **未来へつづくまちづくり** 一生懸命働きます。愛知県議員 **鈴木じゅん**